



愛隣幼稚園.....

園だより

.....20. 9月

5ヶ月が過ぎて

短い夏休みでした。とは言ってもかれこれ半年くらいの間、いったいいつが“ON”でいつが“OFF”なのかよくわからない生活を続けてきているような気がします。季節はいつの間にか冬から春になり、もう今は朝晩の吹く風には秋の気配がしています。なんだかすべてがいつの間にか気が付くようになっていた・・・という2020年です。子どもたちの生活のなかに本来ならあったであろう句読点のような小さなたくさんのステップ、楽しみに期待してそして少し構えて取り組むやや高いハードル、それらをいつものように保障できない保育の日々でした。経験したことのない数ヶ月だったのに、生活そのものには規制がかかり、結果、手応えの少ない日々を過ごしていたような気がします。

このままではいかん！と思っています。表面的には子どもたちに大きな変化は見られません。“新しい生活様式”とやらにも慣れた日々を過ごしています。子どもたちが小さなステップや少し高いハードルに直面することが少なかった数ヶ月は、いつもなら幼稚園は大変な数ヶ月です。例えばたんぼぼ組は、「初めて！」にたくさん出会うことで、面白くなったり、戸惑ったり、嬉しかったり、不安になったり心が大きく動く時です。大好きな人と離れて長い時間を過ごすということは、エネルギーを使います。緊張もします。が、間もなく擦れ合いが起こります。怒ったり泣いたり、手がでたり足がでたり。でもそれは、守られた場所から一歩外へ自分の足で踏みだした証拠。幼稚園に入園した始めにはこんな事件がいっぱいあるものです。さてばら組では、たんぼぼ組の存在に戦々恐々とする時。集団のルールが分かって生活できるようになったばら組にとって、奔放に動き回るたんぼぼ組の出現は、少し前の自分の姿はさておき、心穏やかにはいられない出来事です。幼稚園の約束を伝えたいと思いますが、やりすぎてしまいます。一方で、そんな厄介が嫌で、自分たちのほうが隅っこに行き小さくなって生活する子どもたちもいます。また、視野の広がりには自分と他者との違いに気づくことに繋がります。違っていることに安心できないので、同じになろうとしたり、一緒にいることに安心したくて2～3人のグループを作ります。小さくまとまって違うものを排除しようとしします。そのことでトラブルが頻発します。違っていいと思えるようになること、それはばら組の子どもたちに大事なハードルです。違う自分を知って自信がなくなり、「いい、やらない。」が多くなるのもばら組の子どもたちに見る姿です。そして、てんとうむし組。自分たちが幼稚園で一番大きい人になりました。園庭や保育室で小さい組の人たちと出会いながら、助けてもらう人から助ける人へと変化していきます。自分のやりたいことを後回しにしたり、恥ずかしいけど手を繋いでみたり、大きくなって簡単ではありません。それでも張り切って当番等をしながら次第に大きい人になっていきます。しかし、彼らに経験してほしいことは他にもあります。自分はいいと思うようになること、自分とは違う友達一人一人も同じようにいい、と思うようになること。仲間と力を合わせて創りあげていった生活に満足して、“仲間がいい”と実感しながら本当の仲間になっていくことです。

あ～やっぱり、幼児という時代は友達とのリアルな毎日が必要です。同年齢の子どもたちや異年齢の子どもたちと出会って、時々摩擦も起こしながらじゃないと、自分を知り、他者を知り、理解していくことには繋がらない。幼児期の親子は依存と保護の関係（縦の関係）です。しかし、幼稚園の中にあるのは、ほぼ同年齢の集団という横の関係です。忖度のない対等な関係の中で、互いを尊重し思いを寄せながらそれぞれの持てる力を合わせて園生活を作っていく“仲間”という関係です。これはどうしてもリモートや動画配信では経験できません。画像と音声と文字だけでは、そこにいる仲間の“リアル”を子どもは理解できないと私は考えています。強い人ばかりではない、困っている人、泣いている人、自分を上手に表現できない人もいる、そんな自分もいる。それを知って寄り添い、共に歩いていこうとする人になってほしい、愛隣の願いです。新型コロナウイルスの感染は続いています。まだまだ油断はできません。でも、今日から始まる残り7ヶ月は、ここまで登らずにきた小さなステップと少し高いハードルを、子どもたちと一緒に力を合わせて越えていきたいと思っています。できること、できるやり方を考えながら。